不当解雇15年、絶対に負けない

JALと旧社保庁の不当解雇撤回を

JAL不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会と全厚生不当解雇撤回四国闘争団は1月29日、松山市の城山公園東口で、ことし初の宣伝。雪が舞い、強い寒風の中でしたが、国鉄四国トレインズの力強い、温かいうたごえの支援もあり、かじかむ手をさすりながら元気にチラシを配布しました。

支援を訴える林さんと大池さん（1月29日、松山市）

JAL被解雇者労働組合（JHU）の大池ひとみさんは「日本航空の不当解雇から15年目になります。絶対に負けない気持ちでがんばります」と力を込めて訴えました。

林惠美さんは、日本航空はパイロット飲酒問題で2度目の業務改善勧告を国土交通省から受けたが、日本航空が対処策として出しているのは上意下達、監視強化だと批判。

安全に対してものを言ってきたベテラン乗務員・パイロットの首を切り、ものが言えない雰囲気になったことが大きなストレスになっていると指摘。自由にものが言え、安全に対して提言ができることが安全運航の基盤だとして、「2010年大晦日の165人の解雇を、みんなが納得できる形で解決することが不可欠です」と訴えました。

「日本航空の体質を知り、改善する提言ができるのは被解雇者労働組合しかありません。日本航空の不当解雇を解決することは、労働者の権利・人権を守り、労働条件をよくし、戦争に向かおうとしているこの国の平和を守ることにつながると確信しています」と述べ、闘いへの理解と支援を呼びかけました。

全厚生不当解雇撤回四国闘争団の児島文彦団長は「私たちは、日本社会から不当な解雇をなくそう、労働者が安心して働き続けられる社会につくり直そうと闘いを続けています」と訴えました。